ナショナルFF式石油温風機
（密閉式石油ストーブ）

National

品番 OK-C502 OK-C652 OK-C501D OK-C631D OK-C502D OK-C632D OK-C1102

工事説明書

ご販売店さま用

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据え付けてください。
なお、この工事説明書は取扱説明書と一緒に必ず保存してください。

安全上のご注意（必ずお守りください）

●施工される人への危害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、設置工事において必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った工事をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

⃠	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

据付けや移動は販売店へ依頼すること
ご自分で据付工事され、不備があると感電や火災の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや交流100V以外での使用はしない
たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因になります。

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼するなど法令の基準を守る
製品、油タンク、給排気筒の据付けは、規則を守らないと火災の原因になります。

この工事説明書、別売部材の説明書に従って工事をする
守らなかった場合、予想しない事故が発生するおそれがあります。

変則工事は絶対にしない

変則工事の例
- ●給排気筒をつけない
- ●給排気筒を室内に出す
- ●給気ホースを使わないで排気管だけ使う
- ●分解・改造して使う
- ●給排気筒を屋外に向けて上り勾配にする
- ●排気管接続部をアルミ箔テープで固定

このような変則工事をすると、排ガスが室内に出て、一酸化炭素などが発生し、中毒になるおそれがあります。

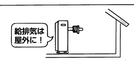
集合煙突利用の禁止
排ガスが室内に出たり、異常燃焼を起こしたり結露水が凍結したりして、事故のおそれがあります。

給排気筒トップ閉そく危険
積雪が多いときに給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。また、板などによる「雪囲い」は、給排気の妨げになるのでおやめください。運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

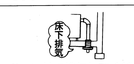
給気・排気部材は「ナショナルFF式石油温風機」専用のものを使う
（新しいものを使ってください）
異常燃焼や排ガス漏れの原因になることがあります。

電源コード、電源プラグを破損するようなことはしない
傷付けたり、引っ張ったり、加工したり、排気管などの高温部に触れたり束ねたりしない。
傷んだまま使用すると感電・ショート・火災の原因になります。

外れ危険
給排気筒を確実に接続し、しっかり固定してください。
風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

屋内給排気禁止


必ず屋外に排気してください。排ガスが室内に充満し、危険です。

床下給排気禁止


必ず屋外に排気してください。排ガスが室内に漏れて、危険です。

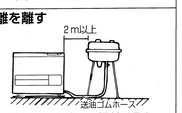
⚠注意

本体が壁に固定できない場所には据付けない
地震のとき転倒し、火災の原因になることがあります。

手袋などの保護具を着用して工事を行う
金属切断面などでけがをするおそれがあります。

給・排気管の延長は長さ3m、曲がりは3カ所以内にする
異常燃焼や排気の結露による凍結・水漏れの原因になります。

次の場所には据付けない
火災や予想しない事故の原因になります。
- ●水平でない場所、不安定な場所
- ●不安定な物を乗せた棚などの下
- ●可燃性ガスの発生する場所又はたまる場所
- ●付近に燃えやすいものがある場所
- ●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所
- ●温室、飼育室など人のいない場所

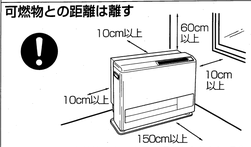
油タンクとの距離を離す


- ●油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火壁を設けてください。
- ●屋内用据置式の油タンクは不燃材の床上に据え付けること。
- ●油タンクとストーブとの所定距離が取れない場合、別売部材（OK-B07K　長さ2.5m）をご使用ください。

送油ホースは屋外で絶対に使用しない
（極端に曲げた状態での使用もしない）
ヒビ割れにより油漏れの原因になります。
- ●屋外は銅、鋼管を使用してください。
- ●送油ホースは定期的に点検し、2年に1度は交換してください。

改造使用の禁止
改造して使用しないでください。
またストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付けないでください。
火災や排ガスが室内に漏れる原因となり危険です。

必ず試運転を行い、安全を確かめる
油漏れ、排気漏れ（臭気）、燃焼の異常などがないか確かめてください。
お客様と立ち会いで運転してください。

可燃物との距離は離す


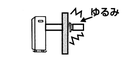
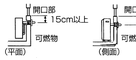
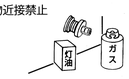
★設置場所の条件等により上図の距離をとれない場合、下表の寸法まで近接設置が可能です。

防火性能評定による可燃物との距離

上方	側方	後方	前方
15cm以上	5cm以上	10cm以上	150cm以上

- ●可燃物(木壁、合板壁、ふすまなど）から上図に示す距離をとってください。
- ●付属の置台を据付面においてご使用ください。

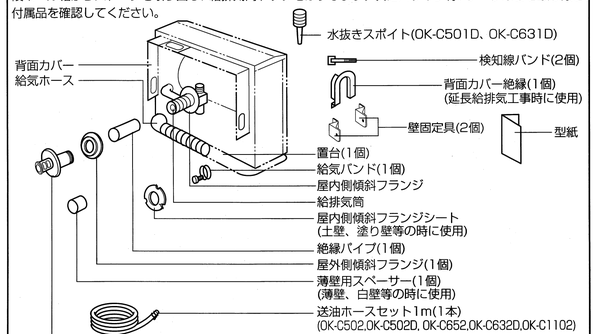
工事終了後給排気筒の点検をする
取り付けが終ったら、もう一度点検してください。
次のような取り付けは危険であったり、不完全燃焼をおこすおそれがありますので、必ず修正してください。

可燃物近接禁止	接続部のゆるみ点検 
下り勾配のこと	3m3曲がり以下のこと
給排気筒トップと開口部との距離は離す 	危険物近接禁止 

※本説明書のイラストはOK-C502D,OK-C632Dで説明しています。

1 開こん

段ボール箱からストーブを取り出し、給排気筒トップをはずします。次にパッキン材、テープなどを取り除き、付属品を確認してください。

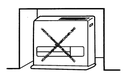


ビスセット			
	タッピンネジ	4×25(3本)	延長給排気工事時に使用（屋内側傾斜フランジの固定用）
	座付タッピンネジ（黒）	4×25(2本)	本体固定に使用（壁固定具と壁の固定用）
	タッピンネジ（黒）	4× 8(2本)	1本：タンク別設タイプ（OK-C1102を除く）に使用（本体と置台の固定用） 1本：延長給排気工事に使用（背面カバー絶縁と背面カバーの固定用）

2 据付け

据付け場所の選定

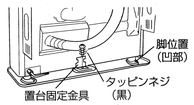
■性能をそこなわないための空間が取れる場所
- ●耐火構造であっても、可燃物との距離が取れないような設置場所（マントルピースや凹部）への据付けはしないでください。



■電源コンセントの位置
- ●コンセント(交流100V 15A)を使用できる位置。(電源コードの長さは2mです)
- ●歩行者が電源コードを引っ掛けないような位置。

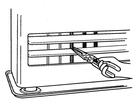
据付け方法

1 置台の取付けと水平設置
- ●付属の置台を据付面に置き、ストーブの脚を置台の脚部に乗せてください。
- ●置台と本体背面の置台固定金具をタッピンネジ（黒）を用いて、固定してください。
  長さ10mm以上のネジを使うと床を傷つけます。
  必ず指定のタッピンネジ（黒4×8）を使ってください。
  (OK-C502、OK-C502D、OK-C632D、OK-C652のみ)
- ●水平で丈夫な床面に据付けてください。



2 本体の固定
- ●本体を壁に壁固定具で固定しますが、取り付けは給排気筒を取り付ける手順の中で行ってください。

3 風向板の調節
- ●ルーバー裏側の風向板により温風吹出し方向を調節できます。
  据付けの後、ラジオペンチなどを用いて希望の方向に風向板を曲げてください。(3回以上曲げないでください)

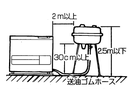


4 油タンクの据付けと送油ホースの接続 (OK-C502、OK-C502D、OK-C652、OK-C632D、OK-C1102)

■油タンクの据付けについては、各地の火災予防条例に従ってください。
- ●油タンクを、40℃以上の場所、直射日光のあたる場所、雨水やほこりの入りやすい場所へ据付けることは避けてください。
- ●油タンクの近くに他の燃焼器具などを置かないでください。
- ●油タンクは不燃材料の上に置き、簡単に動いたり倒れたりすることのないよう据付けてください。
  たたみやじゅうたん の上は避けてください。
- ●送油ホースは付属の送油ホース（長さ1m）またはJIS S 3022（石油燃焼器具用送油管）に適合した送油ホースを使用してください。油タンクとストーブとの所定距離が取れない場合、別売部材（OK-B07K 長さ2.5m）をご使用ください。

■送油配管の中にごみなどがあると、本体の定油面器のフィルターがつまり、送油量が減少することがあります。新しい送油配管にするか、送油配管内の掃除を行ってから、配管してください。

油タンクの据付
- ● 油タンクは本体と同一床面に相当する高さか、右図の寸法に従って据付けてください。



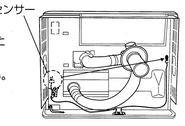
（屋内タンクの場合）

屋外タンクの場合
- ●屋外側の送油配管については「据付工事部材マニュアル」に従って施工してください。
- **●銅管、銅管保護パイプがメタルラス張り、ワイヤーラス張りの壁を貫通する場合、壁貫通部に絶縁テープ等を巻いて電気的絶縁を施してください。**

（屋外タンクの場合）

送油ホースの接続
(1) 送油ホースを油タンクの接続口(屋外タンクの場合は壁付コック等の接続口)に十分押し込み、ホースバンドで固定してください。
送油ホースの先端に灯油をつけると挿入しやすくなります。
(2) 油タンク側のバルブを少し開け、送油ホース先端まで灯油が確実に流れてくることを確認してください。
送油ホース内に空気溜りがあると灯油が流れず点火不良の原因になります。空気抜きは油タンク側から、送油ホースを順次たぐっていくとできます。
床に灯油をこぼさないように受皿等を用意し、慎重に行ってください。
(3) 送油ホースを本体の接続口に十分押し込み、ホースバンドで固定してください。
(4) 送油ホースを途中で山形になったり、もつれたりしないよう整えてください。
(5) 本体の送油ホース接続口のフレアナットの増し締めをし、灯油に漏れがないか確認してください。

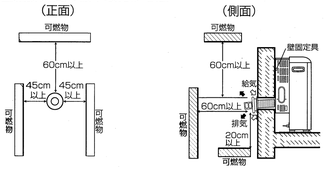
5 室温センサーの移動
設置場所や周囲の状態によっては、室温センサーの温度と室温に差が生じたりして好ましくない場合があります。
- ●室温センサーを取りはずし、反対側に室温センサーを取り付けてください。
- ●排気管に室温センサーのリード線が接触しないように注意してください。



3 給排気筒（管、ホースなど）の取付け

給排気筒の取出し場所の選定

■給排気筒の標準取付け寸法



※障害物に囲まれているような場所に設置することは避けてください。性能に影響を及ぼします。

■給排気筒は外気に通じる壁または窓に取り付けてください。
- ●床下に排気しないでください。

■次の場所には給排気筒を取り付けないでください。
- ●給排気筒の近くに危険物や障害物のあるところ
- ●人通りの激しいところ
- ●積雪の多い地域では、雪や風の吹きだまりになるような場所やつららの真下になるような場所
- ●壁の中に電気配線、ガス・水道配管、すじかいがある位置
- ●集合煙突の利用

専用部材の使用

■ 給排気筒は、必ず付属の「標準給排気筒セット」および別売品「ナショナルFF式石油温風機各種延長工事部材」の新しいものを使用してください。
長期間使用したものは劣化していたり、異物が詰まっている場合があります。

■ O リングの種類及び呼び
用途別　：運動用O リング
材料別　：４種D
呼び番号：P39

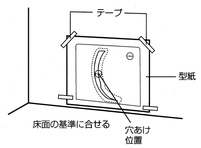
■給排気筒の
形式の呼び：PL-09
(OK-C1102はPL-07)

標準給排気方式の場合

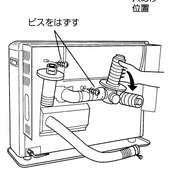
標準給排気方式（壁直結）は付属品の「標準給排気筒セット」（標準対応壁厚135mm～260mm）を使用した取付方式です。

標準給排気方式以外にも設置場所によって、別売部材で窓などを利用したり、排気管と給気ホースを延長したり、厚壁や薄壁に対応して取り付けることができます。
- **●取り付けかたは別売部材に同こんの説明書にしたがってください。**
- **●給排気の延長限度は3mで曲がりは3カ所以内です。**
- **●排気管外れ検知装置を正しく働かせるために**
  ① 給排気筒の端子台に必ず排気管検知リード線を接続してください。
  ② 排気管の接続部には、排気管固定金具を取り付け、確実に電流が流れるようにしてください。
  ③ 延長給排気工事の場合同梱の背面カバー絶縁を必ず背面カバーのノックアウト穴の周囲に取り付け、排気管と背面カバーの電気的絶縁をしてください。

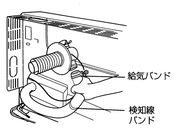
1 付属型紙の貼付
- ● ストーブを据付ける位置の壁に接着テープなどで貼り付け、給排気筒取付け穴位置を決め、印を付けてください。



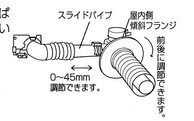
2 穴あけ　(標準対応壁厚135mm ～260mm)
- ● 印を付けた位置に直径85mmまたは直径70mmの穴をあけてください。
  ただし、直径70mmの穴をあける場合は、5度先下がりの穴をあけてください。
- ● 穴をあける時の振動により、外壁が大きくくずれる場合がありますので、ドリルの先端が屋外に出たあとは、屋外より穴をあけてください。



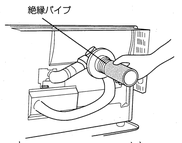
3 給気ホースの接続（給排気筒側）
- ● 本体背面の給排気筒トップ固定金具と排気管保持金具を取りはずし、給排気筒トップを外してください。
- ● 給排気筒を約90度回転させてから、排気管を回転させて給排気筒を穴の位置に合わせてください。
- ● 給気ホースを給排気筒の給気口に差し込み、給気バンドで固定してください。
  使用しない給気口には必ずキャップと給気バンドを取り付けておいてください。
  給気ホースが排気管に触れないように注意してください。
- ● 排気管検知リード線を給気ホースにそわせ、検知線バンドで固定してください。
- ● 土壁・塗り壁等傾斜フランジで傷つくおそれのある場合は、付属の屋内側傾斜フランジシートを屋内側傾斜フランジに貼り付けてください。



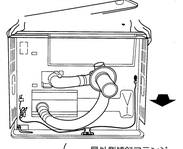
4 排気管・給排気筒の調節
- ● 排気管のスライドパイプを、壁穴の位置に合うように適当な長さに引っぱり出してください。このとき、スライドパイプの刻印（ビード）が出ない程度の長さ（最大45mmまで）にしてください。
- ● 給排気筒の取付け面が本体後面の壁と段差がある場合（長押、出窓など）は、屋内側傾斜フランジを回転させ、壁面の位置に合わせてください。
  設置した状態で排気管の本体側接続部に余分な力がかからないように注意してください。



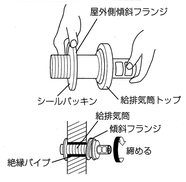
5 絶縁パイプのセット
- ● 絶縁パイプを壁厚に合わせ、ノコギリ等で壁厚より長くならないように切断してください。
- ● 切断した絶縁パイプを給排気筒にかぶせ、屋内側傾斜フランジに固定してください。
  ラス張りの壁貫通時には、絶縁パイプを必ずセットしてください。



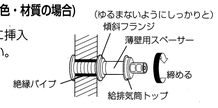
6 本体の移動
- ● 絶縁パイプといっしょに、給排気筒を壁貫通部穴へ差し込むように本体を壁面に寄せてください。
- ● 屋内側傾斜フランジの「屋内　上」が上にくるように回してください。
  (逆に取り付けると雨水が室内に入り込むことがあります)



7 給排気筒トップの固定（壁厚135mm ～260mm の場合）
- ● 屋外側傾斜フランジを給排気筒トップに挿入してください。
  屋外側傾斜フランジには、シールパッキンが貼り付けてあります。
- ● 屋外側より絶縁パイプの中に給排気筒トップのねじ部を挿入し、給排気筒トップを右に回し、給排気筒に締め込んでください。
- ● 屋外側傾斜フランジの「屋外　上」を上にして、給排気筒トップをしっかり締め付けてください。
- ● 屋内・外側傾斜フランジと壁面に隙間があると、排ガスが隙間から屋内に入り、臭いの原因になります。



給排気筒トップの固定（壁厚135mm 以下や外壁が白壁や汚れやすい色・材質の場合）
- ● 給排気筒トップに薄壁用スペーサー、屋外側傾斜フランジの順に挿入し、上記の手順で給排気筒トップをしっかり締め付けてください。



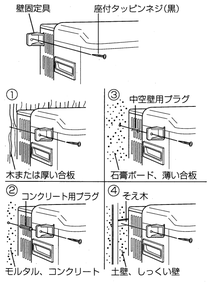
8 壁固定具の取付け
- ● 付属の壁固定具を背面カバー横の長穴(両側) に引っかけてください。長穴は4個ありますが、１つ選んでください。

①木または厚い合板の壁に固定する場合は、壁固定具を用いてねじで直接壁に固定してください。

②モルタル、コンクリートの壁に固定する場合は、コンクリート用プラグを壁に打ち込み、壁固定具を用いてねじで固定してください。

③石膏ボード、薄い合板など中空壁に固定する場合は、中空壁用プラグを壁に打ち込み、壁固定具を用いてねじで固定してください。

④土壁・しっくい壁などように壁固定具が直接取り付けられない場合は、壁にそえ木をして壁固定具を取り付けてください。



4 HAの配線（HAを使用される場合）

ツイストペアー線HAで配線される場合は、別売部材のFF用HA接続コード（OK-BHA4（金具付セット）］とJEMAアダプター（HK-AJ110）を用意し、同梱されている工事説明書に従って、工事を行ってください。

5 試運転

標高・延長による調節について

標高が500m未満で、給排気工事が1.5m未満の延長の場合は、この調節は不要です。

- ●電源プラグをコンセント（交流100V）に差し込んでください。
- ●次の手順にしたがって、標高の設定と延長給排気工事の設定をしてください。

① 電源スイッチを「切」にする。

② 「時刻合せ」「切タイマー」ボタンを同時に7秒間押す。
(OK-C1102は「時刻合せ」「チャイルドロック」ボタンを同時に7秒間押す)
…「ピッ」とブザーが鳴る。デジタル表示部に『 0　　0 』を表示。

③ 標高設定：⊖ ボタンを押し、

表示	標高設定	延長設定
「0」… 500m未満	のいずれかの標高に設定する。	
「5」… 500～1000m未満		
「10」…1000～1500m未満		

（ボタンを押すごとに表示が0→5→10→0…と変わります）

④ 延長設定：⊕ ボタンを押し、

「0」……0～1.5m未満	のいずれかの延長給排気長さに設定する。
「1」……1.5～2.5m未満	
「3」……2.5～3m以下	

（ボタンを押すごとに表示が0→1→3→0…と変わります）

⑤ 電源スイッチを「入」にする。
- ●以上の操作で調節完了です。

試運転

試運転はお客さまと立ち会いで行ってください。

1 運転準備
- ●油タンクに給油し、油タンクや送油管接続部から油漏れがないか確認する。
- ●定油面器セットレバーを2～3回押し下げる。(OK-C502,OK-C502D,OK-C652,OK-C632D,OK-C1102)
- ●電源スイッチが「入」になっていることを確かめてください。

2 運転
1.運転スイッチを押す
- ●運転ランプ点灯。

2.設定温度を室内温度より高くする。
部屋の温度が設定温度より2℃高いと燃焼しません。
- ●約5～6分後（室温0℃のとき）に燃焼を始めます。
- ●燃焼を始めてから約1分半後に温風がでます。
- ●温風吹出方向が適当であるかどうか確認してください。
- ●はじめてお使いになるときは塗料の焼きつくにおいと温風吹出口より煙が出ることがありますが、しばらく使用しますとなくなります。

3.運転スイッチを再度押す
- ●運転ランプが消え、消火します。
- ●本体内部の温度を下げるために、約6分間送風します。

松下電器産業株式会社　石油機器事業部
〒639-11　奈良県大和郡山市筒井町800 番地　　電　話　大和郡山(07435)6-1121

© Matsushita Electric Industrial Co.,Ltd.（松下電器産業株式会社）1997

K0K56960C0P0
(OK-56960C0P0)
M1096N0